

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 2月10日

【評価実施概要】

事業所番号	4271101174		
法人名	特定非営利活動法人 大瀬戸福祉サービス		
事業所名	特定非営利活動法人 大瀬戸福祉サービス グループホームわらび苑		
所在地 (電話番号)	長崎県西海市大瀬戸町瀬戸榎浦郷1468番地 (電話) 0959-37-0037		
評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成20年1月11日	評価確定日	平成20年3月4日

【情報提供票より】(19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計 9 人	
職員数	9 人	常勤 3人, 非常勤 6人, 常勤換算 6.75人	

(2) 建物概要

建物形態	併設/単独	新築/改築
建物構造	木造平屋造り	
	1階建て	1階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	3,000 円
敷金	有() 円 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	150 円	昼食 250 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(19年10月現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名
要介護3	4 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 90.55 歳	最低 84 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	浦口医院、日浦病院、真珠園診療所、山根歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

理事長は、常々職員に、ご利用者に「してあげる」ではなく、ご利用者から「教えてもらうことがある」と伝えてきた。ご利用者が言われた言葉を、毎日「利用者とのコミュニケーション記録簿」に記入し、ご利用者が、周囲の環境・事象をその時その時どう捉えているかを言動から推測し、否定せず、繰り返しの行動障害についても、「ありのままを受け入れ」対応するなど、ご利用者の尊厳を守ることを常に念頭に置いた介護を実践してきた。系列法人のホームも含めて自らのホームの質の向上のみならず、グループホームや認知症ケアが地域に根付いていくことを目指して精力的に活動し、地域事業者とともに勉強会を続け、地域の方向への介護教室も開いている。「現状に満足してはいけない」「瞬間瞬間を楽しんでいただきたい」と言う共通の目標のもと、職員が力を合わせ、毎年「寄り添い方」について振り返りをおこなうとともに、より良い方法の話し合いを続けてきた。「はい、うん」しか言われなかった方が、言葉が多く出るようになったり、暗い時に職員が帰ろうとすると、ご利用者から「ちょうちん持っているか?」「もう暗いから今日は自分の部屋に泊まりなさい」など、職員を思いやる温かい声かけをいただくこともあり、その都度、職員は感動し、感謝の気持ちをご利用者に伝えている。「寄り添い」の成果を確実に残してきており、ご利用者と職員が一つの大きな家族になってきているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 昨年度の外部評価の結果、要改善項目はなかったが、「現状に満足してはいけない」という思いから、引き続き、ご利用者お一人お一人のケアの質の維持、向上をめざして、日々、取り組んできた。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 理事長、管理者は、職員に今年度の自己評価の項目を含めて口頭で説明した。5日間くらいかけて勉強会も実施し、職員全員の、評価に関する理解を深めていった。日頃の状況を振り返りながら、理事長、管理者、職員で話しあいながら自己評価をおこなった。 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 西海市の担当課課長、地域包括支援センター、行政区区長、ご家族の方々が集い、西海地区のグループホーム6事業所合同で開催している。会議の時は、参加している6事業所が、順次それぞれの事業所の現状についての説明、報告をおこない、その後、意見交換をおこなっている。さまざまなホームの状況や、地域の状況もわかり、ご家族も「参考になります」と言うご意見をいただいている。区長の方から「ホームに対して、何をしたいのかかわからない」と言うご意見をいただき、「ホームに見学に来てください」と伝えている。今後は、ホーム単独での開催も検討している。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 職員は、月に1回程度、写真とともに日頃の暮らしぶりを手書きしたお手紙などをご家族に郵送している。面会時には、日頃の暮らしぶりを説明し、ホーム内にも行事の時の写真を貼っている。必要時は、電話での報告もしている。ご家族がホームを来訪時、なるべく理事長、管理者、職員が、ご家族に声かけし、繰り返し要望を言っていただけるよう働きかけている。現在まで、苦情などはないが、申し出があった場合は全職員で考え対応するシステムはできている。今後、もっとご家族に本音を話していただけるよう取り組んでいきたいと考えている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 4月8日の地域の花祭りや地元のお祭りには、ご利用者も職員と一緒に参加し、地域の清掃活動にも職員が参加している。小学校との交流もあり、子供たちが栽培した冬瓜や白菜などを、毎年、ホームに持ってきてくれる。保育園のお遊戯会にも見学に行く予定である。系列のホームと合同で、夏祭りを開催しているが、年々、地域の方の参加(出し物)や協力(準備など)も増えてきている。西海市からの事業受託で、西海市認知症ケア研究会に所属するグループホーム6事業所で分担し、18年度は市内5ヶ所、19年度は7ヶ所で地域の方向への介護教室を開催した。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成12年、開設当初から、地域密着を考えてホームを開設している。ホームの開設当初から、「地域の中で安心して暮らす」ことを意識して理念を作成した。「みんなで いっしょに ゆっくり たのしく」と言う理念の中には、「地域の人を 地域の人が 地域で」という意味がこめられている。	○	理念は、理事長が思いをこめて作ったものである。理事長としては、今後、その理念を基本にしながらも、更に職員同士で理念を膨らませていっても良いのではないかと、それができる時期にきているのではないかと考えている。職員の方々が、日々おこなってきたケアの中で培ってきたものや大切にしているものを、具体的に表現していくことで、より身近な理念になる可能性もあり、今後の取り組みを期待していきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎週日曜日、12時～13時のミーティング時、理事長や管理者が理念に関する話しをしている。馴れ合いにならないことを大切にしながら、現場でおこなっていることが理念に結びついているのか、方向性が間違っていないのかを職員は再確認している。また、日々の現場の中でも、言葉の使い方、態度などを管理者が中心となり指摘をしていくことで、職員自らも、自分の言動に気づけるようになり、理念の共有、実践が全員でできるようになっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	理事長を含め職員は地元の方が多い。理事長自身が自治会に加入し、老人会の活動にも理事長が参加している。4月8日の地域の花祭りやお祭りには、ご利用者も職員と一緒に参加し、地域の清掃活動にも職員が参加している。小学校との交流もあり、子供たちが栽培した冬瓜や白菜などを、沢山ホームに持ってきてくれる。保育園のお遊戯会にも見学に行く予定である。系列のホームと合同で、夏祭りを開催しているが、年々、地域の方の参加(出し物)や協力(準備など)も増えてきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	理事長、管理者は、職員に今年度の自己評価の項目を含めて口頭で説明した。5日間くらいかけて勉強会も開催し、職員全員の評価に関する理解を深めていった。日頃の状況を振り返りながら、理事長、管理者、職員で話し合いながら自己評価をおこなった。また、昨年度の外部評価の結果は、要改善はなかったが、「現状に満足してはいけない」という思いから、引き続き、ケアの質の維持、向上をめざして、日々、取り組んできた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	西海市の担当課課長、地域包括支援センター、行政区区長、ご家族の方々が集い、西海地区のグループホーム6事業所合同で開催している。6事業所が、順次それぞれの事業所の現状についての説明、報告をおこない、その後、意見交換をおこなっている。さまざまなホームの状況や、地域の状況もわかり、ご家族からも「参考になります」と言うご意見をいただいている。区長の方から「ホームに対して、何をしたいのかかわからない」と言うご意見をいただき、「ホームに見学に来てください」と伝えている。	○	今後、わらび苑単独で、運営推進会議を開催することも検討している。参加メンバーが、わらび苑に関係する方々になることで、より、わらび苑に関する議題で意見交換できる時間も増える可能性がある。年に何回かでも、わらび苑の居間で、わらび苑のご利用者や参加者が団欒していただきながら、地域の方と、「ホームとのかかわり方」を具体的に話し合っていけるようになることを期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	西海市からの事業受託で、西海市認知症ケア研究会に所属するグループホーム6事業所で分担し、18年度は市内5ヶ所、19年度は7ヶ所で地域の方向けの介護教室を開催した。理事長と合わせて、管理者も市役所に出向き、市の担当者と意見交換をおこなっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員は、ご家族の方がそれぞれ心配されていること、知りたいことを把握しており、月に1回程度、写真とともに、手書きのお手紙や利用料などの請求書を郵送している。面会時には、日頃の暮らしぶりなどを口頭で説明し、ホーム内にも、行事の時の写真を貼っている。必要時は、電話での報告もしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族がホームを来訪時、なるべく理事長、管理者、職員ともに、家族に声かけし、繰り返し要望を言っていたり働かかっている。現在まで、意見、苦情などはないが、申し出があった場合は、全職員で考え対応するシステムはできている。必要時は関係機関への説明をおこなうシステムもできているが、もつとご家族に本音を話していただけるような場面作りが必要であると考えている。	○	今後も、ご家族が来訪された時の場面を大切にしてい、「お世話になっています」という言葉の裏側の気持ちを、もっと表現いただけるよう、職員とゆつくりと会話できる雰囲気を作っていきたいと考えている。遠慮している可能性もあり、職員とご家族の食事会などもおこなうことで、より話し合える場を増やしていく予定である。ホーム側の思いが、ご家族に伝わり、お互いのコミュニケーションがより深まっていくことを期待していきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者である理事長は、職員が交代することで、ご利用者へのダメージがあることを理解しているため、基本的に異動をおこなわないようにしている。職員間の仲が良く、職員の休みの希望に極力、応じたり、理事長など運営者、管理者も、職員の話しを良く聞くようにしており、日頃からチームワークを大切にしている。離職はほとんど無く、ホーム全体が大きな家族のような関係になってきている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎週のミーティング時の勉強会と合わせて、理事長が介護に関する講義を定期的におこなっている。市内事業所で主催している研究会もホームが主催しており、職員は、毎月、研修を受ける機会がある。また外部研修にも参加し、参加できなかった方には、会議のときなどに研修を受けた職員が伝達研修をおこなっている。現場では、理事長、管理者、先輩職員が、指導にあたっている。	○	現在、事業所全体の研修計画はある。現場では、管理者が、職員個別に指導をおこなう取り組みをしているが、今後は、さらに職員一人一人の育成計画を作成し、段階に応じた育成が継続しておこなわれていくことを期待していきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	理事長自ら、西海地区認知症ケア研究会を立ち上げている。開設時以前より、同業者との交流をおこなっていく必要性を理解し、実際の交流を図る場を積極的に作ってきた。毎月、他のグループホームとの勉強会、情報交換もおこなっている。相互訪問をおこなうとともに、研修会があれば職員が参加できるようにしている。理事長が、施設などからの依頼で認知症ケアなどに関する講義をおこなっているが、その後、講義を受講した方がホームのほうに見学、相談に来られることも多かった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、職員が病院などに事前に訪問したり、ホームに入居する前に、ホームの見学に来ていただき、職員とも顔なじみになるようにしている。入居の説明は、ご家族からご本人に説明をしていただくようにしており、なるべく、ご本人が安心して、納得して入居できるよう配慮している。ご家族の了解を得て、ホームの生活に慣れるまでは、ご家族の面会を多く持っていただくようお願いしたり、事前にご家族から、ご本人の好みや嫌な事を教えていただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、ご利用者から、昔の習わし、料理の仕方など教えていただいている。一緒に料理をするなど、職員とご利用者がともに完成を目指す中で、ご利用者から励ましの言葉をいただくことも多い。また、暗い時に職員が帰ろうとすると、「ちょうちん持っているか?」「もう暗いから、今日は自分の部屋に泊まりなさい」など温かい声かけをいただくこともあり、その都度、職員は感動し、感謝の気持ちをご利用者に伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活の中で、ご利用者の方に昔話を聞いたりしながら、思いや希望を語っていただく取り組みを続けている。意思疎通が困難な方は、ご利用者の行動や表情を見つめ、ご利用者と目線を合わせることで、ご利用者の思いに近づく努力をしている。ご利用者が言われた言葉を、毎日「利用者とのコミュニケーション記録簿」に記入している。職員が、何気ない言葉も見落とさず、その言葉にこめられている本当のお気持ちに近づく取り組みを続けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成にあたっては、あらかじめご本人、ご家族の意見、希望を聞きながら、かかりつけ医に相談した結果も踏まえ皆で話し合って作成している。一早く「センター方式」を活用し、“私の願い”と言う視点を職員は大切にしながら、“その方らしさ”を把握し続けている。毎日の「利用者とのコミュニケーション記録簿」も活用し、ご希望を把握し、「地域で暮らす」と言う視点も持ち、ご利用者主体の介護計画になるように努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1週間に1度のミーティングで、全員の体調や状況の意見交換をおこなっている。短期目標に合わせて、モニタリングを実施するとともに、日頃から、ご本人、ご家族にも意見をうかがいながら介護計画作成の見直しをしており、状態が変化した場合、随時、見直し、介護計画の変更をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者やご家族の要望に応じて、通院介助の他、急な受診の対応をしている。かかりつけ医への報告を徹底し、異常の早期発見、早期治療につなげている。入院中もお見舞いに行き、ホームでの生活が可能かどうか、かかりつけ医との連携を取り、早期退院につなげられた方もいる。地域の方のご希望で、空室がある場合は短期利用共同生活介護の利用をおこなえるようにしており、地域の方からの介護相談にも応じている。ご家族の希望によっては、理事長宅で葬儀を執りおこなうこともある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族などの要望を聞き、以前からのかかりつけ医で受療していただいている。かかりつけ医には、日頃より、ご利用者の状況、暮らしぶりなどを、管理者などが細やかに報告しており、いつでも相談できる関係ができており、かかりつけ医からも、適宜、必要な助言、指導をいただいている。必要な方は訪問看護も利用している。通院介助は、職員がおこなっており、通院の結果はご家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族の希望で、お一人、ホームで看取りをおこなった。かかりつけ医が往診をしてくださり、その時々状況に応じて、職員は、電話でかかりつけ医に相談を続けるとともに、ご家族とも、繰り返し話し合いをおこないながら全員で方針の統一を図る努力をおこなった。他のご利用者やご家族に対しても、重度化した場合や、終末期の意向も把握できており、ご希望に応じた対応をおこなっていききたいと考えている。ご希望時は、理事長宅で葬儀をおこなうこともある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティング時、理事長、管理者などより、お一人お一人の誇りやプライバシーを損ねる言動をしないよう注意をしている。地域によって方言が違い、少し口調が強くなる地域もあり、職員はお互いに言動を注意している。職員が、ご利用者の居室を入室する時は、必ず声かけをおこない、その方に応じた話し方を気をつけるとともに、否定的な言い方はしないようにしている。職員が、個人情報に関する話をするときは、他に聞こえないよう配慮するとともに、情報の漏洩防止にも努めている。	○	ご利用者に対して、常に馴れ合いにならず、敬意を持った言葉かけ、対応をしていきたいと考えているが、親しみのつもりから、時にご利用者への言葉かけが“馴れ合い”になってしまい、他の職員から注意をされる場面がある。どのような言葉かけが、“ご利用者にとって、より良い言葉なのか”、職員同士で話し合いを続けながら、マニュアル化されてみてはいかがであろうか。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の体調にもよるが、希望を言えない方であっても、なるべくご本人のペースで自由に行動していただくようにしている。座りっぱなしや寝たきりにならないよう声かけして、ホームの前の庭に出たり、職員が隣に座って話しをしたり、楽しいレクリエーションをおこなっている。職員が、ご利用者お一人お一人のお気持ちに配慮しながら、意識して声かけを行い毎日の過ごし方の希望を聞いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者に、食べたいものご希望を聞いたり、食材の買出し、下ごしらえ、食器拭き、テーブル拭きなど、お一人お一人のお力に応じて手伝っていただいている。時々外食したり、旬のものや菜園で取れた白菜や水菜などを利用し調理している。同じテーブルで職員も一緒に食事をしており、楽しい会話の中で楽しい食事となるよう、毎日心がけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回、入浴日を決めているが、希望があれば、毎日でも入浴できるようになっている。必要時は、シャワー浴などでも対応している。羞恥心への配慮も心がけ、基本的には一人ずつの入浴にしている。季節感を出すために、ゆず湯をしたり、入浴時の会話を大切にし、楽しい入浴になるよう配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者の方々に、長年培ってきたお力を発揮していただけるよう、食後の食器拭きや洗濯物たたみ、野菜の皮むき、モヤシの根切りなどをしていただくなど、日常生活の中で役割を持っていただくようにしている。楽しみとしては、お花摘み、歌を唄われる方などもおられ、日々の会話の中で昔からの知恵を教えてください方もあり、お一人お一人のお力を発揮して活躍の場をより多く作れるよう配慮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居する前から良く行かれていた、海や馴染みの地元の店など、お好みの場所に個別に外出できるよう職員は対応している。ドライブが好きな方にはドライブ、散歩が好きな方は散歩と、ご本人の意向に合わせた外出ができるよう配慮している。ホームの前は、一面、緑の山々が広がっており、管理者が大切に育てている花々も咲いているため、気分転換のためにも、お天気の良い日は、玄関の外に出て、みんなで日向ぼっこしている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、朝6時から夜19時まで開放されており鍵はかけておらず、ご利用者やご家族の方には自由に出入りしていただいている。職員同士で声をかけ合い、ご利用者ごとの落ち着いたなくなる時間帯や原因を把握して、お一人お一人の行動の確認、見守りをおこなっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	系列のホームと合同で、火災訓練をおこなっている。年2回実施し、全職員、地域の方々、消防署、消防団の方が参加し、火災時と合わせて、夜間を設定しての訓練もおこなっている。以前、ご利用者が訓練に参加した後、混乱して不穩になられてしまった。その後は、当日、ご利用者の参加はしていないが、ご利用者お一人お一人に対する避難方法の確認はおこなっている。	○	現在、災害のための備品は用意されていない。何をどのくらい準備して置けばよいか、系列のホームの方も含めて検討してみたいかがある。いざという時の安心につながっていくと思われ、今後の取り組みに検討していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を作成する時に、一人分の総たんぱく質量や、総カロリーを計算している。系列の栄養士にお願いして、年に4回、食事内容の相談をしております。ご利用者個々の好みを把握し、その好みに応じた個別の調理もおこなっている。お一人お一人の食事量は記録し、水分量も把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食卓に、季節の花を飾ったり、季節感のある飾り物を心がけている。日差しに配慮したカーテンを使用しており、リビングにはソファや食卓、テレビを置いてくつろいでいただいている。臭いがこもらないよう換気にも注意している。ご家族が、お花や飾り物の亀を持ってきてくださる方もいて、共有空間が居心地が良くなるように協力してくださっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族とも相談しながら、掛け軸、籐のいすやご家族の写真など持ってきていただいている。職員も、ご本人が、起き上がる時の向きを確認し、ベッドの配置を考えたり、ご利用者にとって慣れ親しんだ状況になるように配慮している。		